



トラパント

秋田魁新報に掲載される

シリーズ「働くということ」第5回

3月31日(木)の秋田魁新報にて、株式会社トラパントが掲載された。取り上げられたのは同月25日から始まった「働くということ」シリーズ。人口の流動や地域社会の維持、個人の生活、人生設計に深く関わる「仕事」が、秋田の労働者不足問題や県内企業にどういった影響を及ぼすのか。働く人たちの現状から秋田の課題と将来を見通すコーナーだ。

同社が取り上げられたのは第5回目。それまでの回の内容は、若者の雇用が増やしていくといった先行きの不安を



持っている企業の実態を紹介する内容だった。それに対し、

掲載された実際の紙面。「ガオー」というポーズと共に明るい雰囲気は伝わる。

Pマーク取得

Pマーク(IIプライバシーマーク)とは、個人情報保護の体制を整備している事業者に対して認定される制度の通称である。昨年度からこの認定を得るための取り組みを始めた株式会社トラパントが、約1年の期間をかけて取得に

同認証取得まで、平均1.2年かかると言われている。会社内でのルールを社員全員が徹底する必要があるため、最初に取得の話が出た際は皆が戦々恐々としたが、昨今の

個人情報に対する意識の高まりもあり、取得を目指す決定に至った。

規定には、来客スペースと作業スペースを自由に行き来できないようにしなければならぬという項目があり、Pマーク取得を機に、セキュリティゲートをさらに強固にするため、各自が持つスマートフォンから施錠・開錠ができるアプリを導入した。認定の現地審査員も、「この仕組みを取り入れた例は初めて見る」と語った。

3月30日、無事に登録証が届けられた。

若者を中心とした雇用を順調に増やしている企業として紹介されている。

記事には同社の新年度の計画である「新部門の立ち上げ」「仁賀保高校情報メディア科からの新卒者の採用」「東北各地の同業者と共同出資社を米国に設立する」といった内容が紹介された。



インタビュに答えた長谷川は「将来の秋田のため、一人でも雇用を増やしたい。東京じゃなくても面白い仕事、

今年も大好評

イベント主催

株式会社トラパントが昨年度に引き続き県内の秋田県老人総合福祉エリア(通称シルバエリア)にて、合計3日間のゲームイベントを行った。館内マップを

手にした参加者が、館内に潜む「怪人X」に捕まらないよう施設内を回り、姿を消した施設のマスクottキャラ「ユニちゃん」を探し出すための「謎解き」に挑戦する。今年にはスマートフォンを使用して謎解きに挑戦できたり、



参加者との記念撮影。中央が「怪人X」

インタビュに答えた怪人Xは「将来の秋田を担う子供たちのため、一人でも参加者

新しい仕事はできる。組織を育て、県外の仕事をどんどん秋田に引っ張ってくるのが経営者の務めだ。」と語った。



取材を受ける長谷川社長。

館内に潜む「怪人X」の現在地をカメラ映像で推測できたりするなど新たな工夫も盛り込んだ。参加者からは「怪人Xが追いかけてくるのがスリルがあつておもしろかった」「やりごたえのある謎解きで、親子で楽しみながら参加できた」との声があつた。

ニュース ダイジェスト

3月26日(土)、新社員の石塚がトラパントへ加わった。三重県鈴鹿に住んでいたことがあり、昨年12月に入社した三浦も三重県鈴鹿出身であることから、「鈴鹿からのスパイではないか」と懸念され、関連性を調べている。

を増やしたい。東京じゃなくても面白いイベント、楽しい体験はできる。企画を育て、県外の子供もどんどん秋田に引っ張ってくるのが私の務めだ。」と語った。



取材を受ける怪人X。

話題沸騰!! 新設部門は「3DCG」

偶然にも謎の三重県鈴鹿からの応募

緊急インタビュー 伊東選手 伊東選手 伊東選手

完全版 Pマーク取得までの道

怪人X 独占インタビュー 「正体は誰なのか!!」 仮面の中の素顔に迫る!?

週刊文虎 毎週火曜発売!! 定価 450円(税込)